

2021 年度日本認知症ケア学会・認知症ケア賞 実践ケア賞

一般社団法人かまくら認知症ネットワーク

【設立年月日】2011 年 9 月

【授賞理由】

本団体は、世代や立場を超えた交流活動により新たなつながりや挑戦が生まれる場所づくりを地域において実践されてきました。認知症もその人の個性であり寧ろ認知症だからこそ広がる世界があることを社会に示唆するその活動は高く評価することができます。これらの取り組みは、認知症ケア賞（実践ケア賞）の受賞に相応しいといえます。

【団体概要】

2011 年 9 月に一般社団法人の非営利型として法人化を行う。鎌倉市内を中心に正会員 100 人、賛助会員 30 人・団体が登録している。正会員の年会費は 3000 円、賛助会員の年会費は一口 2000 円である。予算規模は年間 100 万円程度と決して多くはないが、活動の幅は広く、近年は他の地域との連携にも力を入れている。会員の構成は、医療従事者、介護従事者、認知症本人家族、市民と幅広く、当事者と専門職と市民がつながりながら支援の輪を広げていく活動を行っている。活動は 5 つの部会「相談部会」「支援部会」「研修部会」「広報部会」「まちづくり部会」に分かれており、認知症本人の参加が多いのが特徴である。

【事業活動】

相談部会…若年性認知症ほっとサロン（年 6 回）

支援部会…かまくら散歩～歩く認知症カフェ～（年 4 回・2009 年から 42 回開催）

…スポーツ大会への参加（D シリーズ・日本認知症ソフトボール大会 2014 年から参加、DK リーグ神奈川ソフトボール大会 2017 年から開催）

研修部会…認知症医療介護講座（年 1 回）、認知症家族勉強会（年 3 回）

認知症本人講演会（年 1 回）

広報部会…会報の発行（年 6 回）、ホームページ適宜更新

まちづくり部会…認知症の普及啓発活動、フォークデュオ「ヒデ 2」の活動

【活動内容等】

活動目的：

認知症ケアを通じて地域のネットワーク作りを進めることにより、本人本位のケアを実現し認知症の人と家族の生活を支援する事を目的とします。（法人定款より）

活動の特徴：

認知症の本人を中心に介護医療の専門職、市民（中高生を含む）がつながりながら支援の輪を広げる活動を実践している。継続して若年性認知症支援に取り組んでいるほか、認知症の本人の社会参加支援を軸に家族の支援や介護従事者の資質向上の研修の活動、地域を巻き込んだ普及啓発の活動にも力を入れている。

活動の効果・影響：

「若年性認知症ほっとサロン」や「かまくら散歩」に参加することで、他の当事者や支援者、市民とつながりが生まれている。かまくら散歩は「歩く認知症カフェ」とも呼ばれ、認知症の本人家族、専門職、市民、中高生らが同じ立場で参加、毎回 5～6 組の本人家族の参加がある。活動を始めた当初は、参加者が行方不明になるのではないかと危惧する声が上がったが一度も行方不明者は生じていない。この経験は鎌倉市内の活動にとどまらず、鎌倉市外の活動にも影響を与えた。認知症本人講演会では神奈川県内各地から本人たちが演者として参加した。静岡県富士宮市で行われているソフトボール大会に参加、神奈川県内の支援者有志でソフトボール大会を開催し事務局を務めた。フォーカデュオ「ヒデ 2」の活動はNHK厚生文化事業団の「認知症とともに生きるまち大賞」を受賞した。これらの活動は効果を生みながら連動連鎖し発展を続けてきた。

今後の活動予定：

新型コロナウイルスの影響により、「人と人とのつながりを創る」活動に支障が生じているが、感染対策を万全に行ったうえで、「かまくら散歩」などの屋外での社会参加活動、オンライン講演会や勉強会を中心に事業の計画を立てている。

その他：

「かまくら散歩」では、主催者が参加者を一方的に引率するのではなく、参加者の主体性を尊重するよう努めている。参加者は歩きながら草花の美しさに目をとめたり、空を流れる雲を眺めたり、他の参加者と笑顔を交わしたりしている。認知症の支援というのは、ケアを与えることだけではないというのを、私たちはこの活動により得たように思っている。